

農業を通じて地域に恩返し

——姫路の夢前夢工房の取り組み——

主任研究員 重頭ユカリ

1 はじめに

世界遺産に登録され「白鷺城」の別名をもつ姫路城は、2014年度までの予定で改修工事が行われている。改修工事の間も市民や観光客が楽しめるようにと、08年から「ひめじ田宴アート」と呼ばれるプロジェクトがスタートした。このレポートでは、地域のJAや企業等と協力して同プロジェクトを立ち上げるとともに、小学校での農作業体験実習にも力を入れている農業生産法人(有)夢前夢工房の取り組みについて紹介したい。

2 夢前夢工房の概要

夢前夢工房(以下「夢工房」)の代表をつとめる衣笠愛之氏は、大学卒業後、父親が経営する養鶏業を手伝いながら43aの水田を祖父と共に管理していた。自身の農薬中毒等をきっかけに従来農法から無農薬農法に転換し、94年に専業農家となった。99年に夢工房を設立し経営規模の拡大を進めながら、新規就農者への研修にも取り組んでいる。09年からは姫路市の農業公園の指定管理者となり、同公園でレストラン、売店の運営も始めた。現在、夢工房では、正社員9名、研修生2名、パート5名、アルバイト4名が働いている。

衣笠代表は、「普通に作っていたらただの『農産物』だが、産地としてまとまって栽培すれば『特産物』になる」と考えている。99年から農薬・化学肥料を使わずに栽培を開始したそばは「夢そば」と名づけられ、今では他の農家が耕作する分も含めて43haと、兵庫県下でそばの作付面積としては最大になった。

夢工房は、現在、米27ha、小麦14ha、そば5ha、豆類9.8ha、野菜1.5haを栽培しており、作物は同社が運営するレストランの食材や加工品の原材料となるほか、インターネット経由、売店・地元スーパーで販売されている。

3 田んぼの学校・畑の学校

衣笠代表は、99年から地元の小学生を対象に、田畑を使った農作業の体験実習を始めた。当初は衣笠代表が学校に押しかけるかたちで始まった実習だったが、今では小学校のカリキュラムとしてすっかり定着している。

衣笠代表は、子どものころ、なぜその作業が必要なのかという理屈を教えてもらえず農作業を手伝わされた苦い思い出があるため、生徒たちには、ただ手順を教えるだけにしないようにしている。例えば「大きな芋を作るためにはどうしたらいいと思う？」等と問いかけ、生徒たちに答えやその理由を考えさせる。大豆作りをしている生徒たちが、豆腐や味噌など様々な加工品を作りたいと言い出した時には、「味噌の作り方は自分も知らないけどどうするの？」と聞いた。すると、生徒たちは味噌屋さんと呼んできて作り方を教えてもらおうと言い出したという。そういう体験を小学生の時にした人が、今では夢工房の研修生になっている。

夢工房は、周辺の農家から農地を借りているが、「地代の分は地域の子どもに返す」と言っており、農家に地代を払ったり、農作物を渡したりしていない。農家を含めた地域の人たちは、全戸配付の学校新聞を通じて田んぼの学

校や畑の学校のことをよく知っているため、皆それで納得しているという。

4 「ひめじ田宴アート」

「ひめじ田宴アート」は、姫路市夢前町の田に古代米など色の違う稲を植え、姫路城を描くというプロジェクトで、今年3回目を迎えた。田んぼアートとしては、世界最大規模であり、現在ギネスブックにも申請している。毎年公募される図案に基づいて稲で描き出されるアートは、書写山の山頂やロープウェイから見ることができる。

衣笠代表はもともと青森の田舎館の田んぼアートに興味を持っていたが、ある日農作業中に空を見上げると書写山ロープウェイが見え、ここなら田んぼアートを見下ろすのに適していると思ったのだという。06年に夢前町が姫路市に合併されており、夢前町発で姫路のPRをしたいという気持ちもあった。

そこで早速地域のキーマンに話をすると、皆面白いと言ってくれたが、実際にどのように軸となる組織づくりをすればよいのかが分からなかった。ロープウェイを管轄している神姫バスに相談に行ったり、地元のJA兵庫西、兵庫信連にも声をかけたりしているうちに、市や県も入って徐々に組織ができてきた。大勢の子どもが参加できるプロジェクトにしたいと考えていたところ、毎年子ども向けイベントを開催していた地元のJC(青年会議所)から声がかかるといったタイミングにも恵まれた。田に絵を描くためのドット表作りは、兵庫県立大学に声をかけ協力してもらうことになり、神戸新聞等も参加して、プロジェクトの実行委員会が形成された。

田植え時には、地元神社の協力を得て「お



今年の田宴アートの様子(スタジオイットク提供)

田植え祭」を開催し、JA兵庫西の新入女性職員が農業研修の一環で五月女の扮装をして参加している。その他、地域の子どもたちや、実行委員である兵庫信連等の団体、協賛の農林中金大阪支店等からも参加者があったほか、今年は初めて旅行会社が有料で開催したツアーで参加した人もいた。合計で約千人が参加しての田植えは、壮観だったという。

田宴アートプロジェクトでは、稲刈りのときに「抜穂祭」を開催するほか、夏に田をライトアップするイベントも行っている

このプロジェクトの09年の経済的な効果については、兵庫県立大学の秋吉一郎教授が、田宴アートの開始前より約2万2,500人増加したロープウェイの乗客を田宴アート目的の日帰り客と仮定したうえで、姫路市の産業連関表等を用いて、約1億4,500万円と推計している。^(注)

5 おわりに

夢工房の取組みは、農業を通じて小学生から、会社勤めの人、旅行者など様々な人をつなげている。そして、夢前の山あいには、本物の姫路城にも負けない大きな城が築かれていることが感じられた。

(注)神戸新聞2010年2月11日付の記事。

(しげとう ゆかり)